

ROOT講習会第4回 TF1 fitting TGraph

中村輝石(東北大) kiseki@epx.phys.tohoku.ac.jp

- 本資料の著作権,文責は著者に帰属し,所属機関を代表したり,機関の意見を表明するものではありません。
- 学校、研究機関の教育、研究目的であれば自由に使用することができます。報告なく改変、再配布可能です。
- ただし使用者は誤りや誤字を報告する義務があります。

自己紹介

• 中村輝石

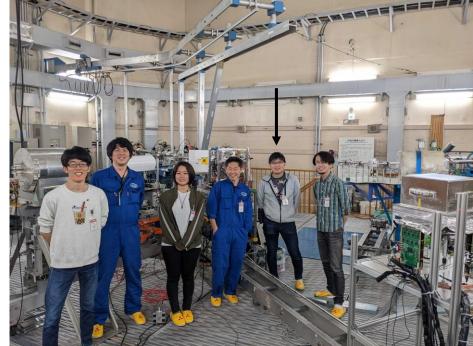
・東北大学 素粒子実験(加速器)グループ

• 実験: AXEL、T2K、SK、HK、など

・博士: NEWAGE実験で取得







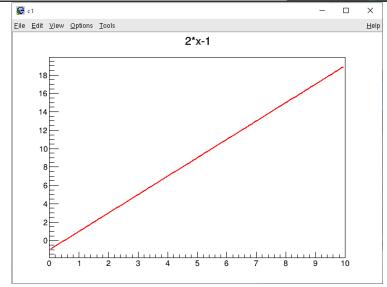
第3回でやること

- 関数「TF1」を作れるようになる
 - 中高で習うような関数をイメージしてもらえばOK(プログラムの関数ではない)
 - y=ax+b、y=sqrt(x)、y=a*sin(x)、y=a*exp(-b*x)、y=a*exp(-((x-b)/c)^2) など
- ヒストグラムを関数であてはめる(fitting)
 - ヒストグラムがどのようなモデル(関数)に合うのかを確かめられる
 - fitting結果が合ってるのかどうかの判断も
- グラフ「TGraph」を作れるようになる
 - (x,y)の点列の描画のこと
 - 結果を見やすくできる

TF1: 最小構成要素

- 新しく function 1.C を作る
 - 変数は x と決まっている
- 実行する
- 直線が引けましたか?

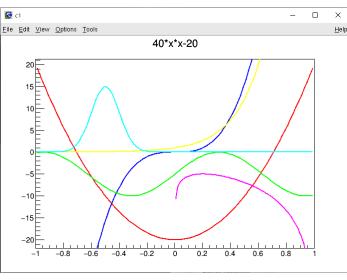
```
kiseki@dell-xps13:~/ymap2022$ root -l function1.C
root [0]
Processing function1.C...
Info in <TCanvas::MakeDefCanvas>: created default TCanvas with name c1
root [1]
```



TF1: いろんな関数を使ってみる

- function2.C を作って実行
- TMath とは
 - rootの名前空間で、単純な数値計算を楽にできる関数がたくさん用意されている
 - https://root.cern.ch/root/html524/TMath.html

```
//function2.C
void function2(){
  TF1 *func1 = new TF1("niji","40*x*x-20",-1,1);
TF1 *func2 = new TF1("sanji","TMath::Power(5*x,3)",-1,1);
TF1 *func3 = new TF1("sin","5*TMath::Sin(5*x)-5",-1,1);
TF1 *func4 = new TF1("exp","TMath::Exp(5*x)",-1,1);
TF1 *func5 = new TF1("log","8*TMath::Log(1-x)+2*TMath::Log(x)",0,1);
TF1 *func6 = new TF1("gaus","15*TMath::Gaus(x,-0.5,0.1)",-1,1);
   func2->SetLineColor(4);//ao
   func3->SetLineColor(3);//midori
   func4->SetLineColor(5);//ki
   func5->SetLineColor(6);//momo
   func6->SetLineColor(7);//mizu
   func1->Draw();
   func2->Draw("same");
   func3->Draw("same");
   func4->Draw("same");
   func5->Draw("same");
   func6->Draw("same");
```



TF1:パラメータを使ってみる

- function3.C を作って実行
- amp、freq、offsetをいじってみよう
- p0 * sin(p1*x) + p2

```
//function3.C
void function3() {

Double_t amp=10;
Double_t freq=0.5;
Double_t offset=5;

TF1 *func1 = new TF1("sin","[0]*TMath::Sin(x*[1])+[2]",-4,4);
func1->SetParameters(amp, freq*2*TMath::Pi(), offset);
func1->Draw("L");
}

SetParameters で変数に
順番に値を入れる
```

TF1: c++の関数を流用する

- function4.C
- 関数を別に用意しておいて、横軸にするものをxに、他をパラメータにして定義したりもできる

```
//function4.C
Double t dRdE(double E R, double mass DM, double A){
  double v = 230;
  double rho DM = 0.4;
  double sigma 0 = 1.0;
  double mass p = 0.932;
  double R 0 = 2.0/TMath::Sqrt(TMath::Pi()) * 6.02e26/A *rho DM/mass DM *sigma <math>0*1e-36 *v 0*1e5 *60*60*24;
  double v c=3.0e5; // km/s
  double E = 0 = 0.5*mass DM*v 0*v 0/v c/v c *1000000; // GeV-->keV
  double r = 4.0*mass DM*A*mass p/TMath::Power(mass DM+A*mass p, 2);
  return R 0/E 0/r*TMath::Exp(-E R/E 0/r);
                                                                                     File <u>E</u>dit <u>V</u>iew <u>O</u>ptions <u>T</u>ools
                                                                                                      dRdE(x,[0],[1])
void function4(){
                                                                                      0.0012
  TF1 *func1 = new TF1("energy spectrum", "dRdE(x, [0], [1])", 0, 400);
                                                                                       0.001
  func1->SetParameters(100, 131);
                                                                                      0.0008
  func1->Draw();
                                                                                      0.0006
                                                                                      0.0004
                                                                                      0.0002
```

TF1: 余裕な人向け

- function5.C
- ・数値計算とかはTF1で可視化すると良い
- 余裕があればparametersをいじってみてください

```
return imath::rower(Sin(qr)/qr, Z) *imath::Exp(-q*q*
                      return -1:
  else
void function5(){
  // parameters
  Double t mass DM = 100; //GeV/c^2
  Double_t A_array[3] = {19, 73, 131};// 19F, 73Ge, 131Xe
Double_t Ja_array[3] = { 0.647*1.0, 0.065*0.078, 0.055*0.212 };// J-fa
  int mode = \overline{0};// SI:0, SD:1
  // canvas
  int i_color[3] = {2,3,4};
TCanvas *c = new TCanvas("c","c",1000,1000);
  c\rightarrow Divide(2,2):
  c->cd(1)->SetMargin(0.15, 0.1, 0.1, 0.1);
  c->cd(1)->DrawFrame(0,0,400,0.02,"energy spectrum (raw);recoil energy
  TF1 *func1[3]:
  for(int i=0; i<3; i++){
    func1[i]= new TF1(Form("f1 %d", i), "dRdE(x, [0], [1])", 0, 400);
    func1[i]->SetParameters(mass DM, A array[i]);
    func1[i]->SetLineColor(i color[i]);
    func1[i]->Draw("same");
```

左上図

暗黒物質に弾性散乱される原子核のエネルギースペクトル。標的はF、Ge、Xeの三種類。このときは、運動量移行はが十分に小さいという仮定をおいたもの。また、地球の速度を0、銀河の脱出速度を∞と置いたシンプルな状況(まじめにやるときはちゃんと考慮する)。

右上隊

暗黒物質と原子核の散乱断面積について、暗黒物質の質量依存性、標的依存性を陽子のときとの比として図示。この図ではSpin Independent (SI) な反応を仮定 (マクロ内でSpin Dependent も選べるようにした)。SI反応はコヒーレント反応とも呼ばれ、質量数の二乗に比例するため、キセノンのような重い原子核で大きくなっている。一方でSDは原子核のスピンに依存するため、軽い原子核が有利になる場合もある。

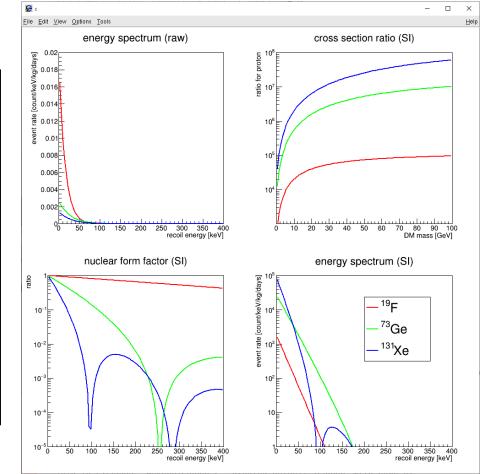
左下図

運動量移行があるときに、断面積が小さくなる効果(フォームファクター)について、反跳エネルギー依存性として図示。重 い原子核ほどフォームファクターの影響が大きく、実効的な断面積は小さくなってしまう。 低エネルギー (低運動量移行)な ら影響はマシ。 ギャップになっている部分は、原子核内の核子の分布をベッセル関数で置いているため (球殻や一様球を フーリエ変換)。

右下図

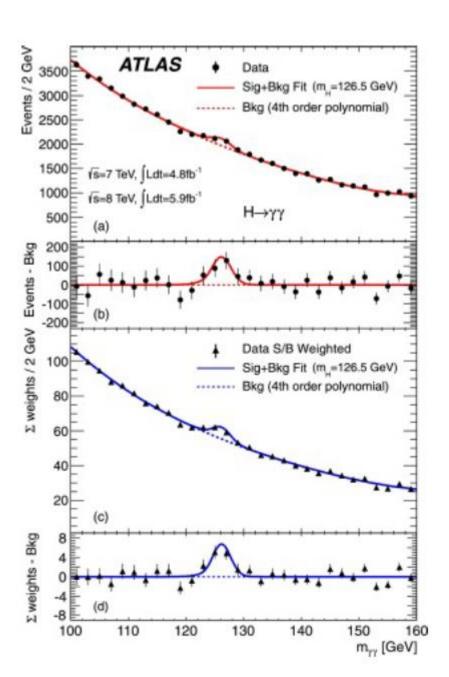
反跳スペクトル、断面積、フォームファクターを考慮したエネルギースペクトル。40keV以下ではキセノン標的が一番イベント数が期待できることが分かる。SDだと有利な原子核はどうなるか?

参考文献: J.D.Lewin and P.F.Smith, Astroparticle Physics 6 (1996) 87-112



フィッティング

- なぜフィッティングをするのか?
 - ・ 測定データ(ヒストグラム)を説明できるモデル(関数とパラメータ)を探し当てたい
 - 関数形を知りたい場合もあるし、パラメータが知りたい場合もある
 - フィッティング結果がどれくらい合ってるかも 分かる



root でフィッティング(手続き)

fitting1.Cを作ってrootで実行

```
fitting1.C
void fitting1(){
  // prepare histogram
  int bin num=10;
  TH1D *h = new TH1D("h", "h;", bin_num, 0, 10);
  for(int i=0; i<400; i++) h->Fill(gRandom->Gaus(5,1.4));
                                                                        誤植:2で割っ
  h-Draw("E");
                                                                            てない
  // fitting
  TF1 *f = new TF1("f","[0]*TMath::Exp(-(x-[1])*(x-[1])/[2]/[2])",0,10);
  f-SetParameters(10, 5, 2);
  h-Fit(f);
                                       それっぽい初期値を入れておく
                                   kiseki@dell-xps13:~/ymap2022$ root -l fitting1.C
    hをfでフィッティング
                                   root [0]
                                   Processing fitting1.C...
                                   Info in <TCanvas::MakeDefCanvas>: created default TCanvas with name c1
                                    FCN=6.90395 FROM MIGRAD
                                                          STATUS=CONVERGED
                                                                           130 CALLS
                                                                                         131 TOTAL
                                                    EDM=4.99631e-08
                                                                   STRATEGY= 1
                                                                                 ERROR MATRIX ACCURATE
                                     EXT PARAMETER
                                                                           STEP
                                                                                      FIRST
                                         NAME
                                                 VAI UF
                                                               ERROR
                                                                           S17F
                                     NO.
                                                                                   DFRTVATIVE
              フィット結果は
                                                  1.04743e+02
                                                              6.67767e+00 7.25344e-03
                                        Øq
                                                                                    4.85724e-05
                                                             7.71534e-02
                                                                       1.05719e-04
                                                  4.96672e+00
                                        р1
                                                                                    2.01273e-03
               標準出力に
                                       p2
                                                              8.55045e-02
                                                                         9.27754e-05
                                                  2.12485e+00
                                                                                    1.29459e-03
                                   root Γ17
```

File Edit View Options Tools

フィッティングの種類

- カイ二乗フィット(最小二乗法ともいう)
 - <u>データ点とモデルの線の差(カイ二乗値)を最小にする</u>
 - rootのデフォルトのフィッティングはこの方法になる

$$\chi^2 = \sum_{k=1}^n \frac{\left(O_k - E_k\right)^2}{E_k}$$

+8*log(1-x)+2*log(x)

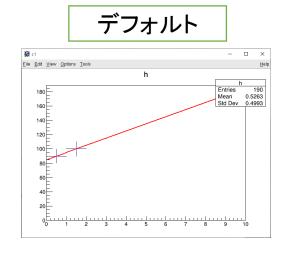
- Likelihoodフィット(最尤推定法ともいう)
 - モデルが実データを予測する確率(尤度)を最大にする
 - 例)
 - さいころが1が出る確率(xとおく)を求めたくて、10回振ったら、2,5,4,3,1,6,4,1,3,5 だった
 - 上記実験が起きる確率(尤度)は、L = (1-x) (1-x) (1-x) (1-x) x (1-x) (1-x) x (1-x) (1-x) (1-x)
 - 上の式をLで置いて、最大化するときのxを求めたい
 - ・掛け算は大変なので、log(L)で足し算にばらして計算することが多い
 - log(L)=8log(1-x)+2log(x) TF1で描くと右図のようになる
 - 最大のときのxは0.2になる(f->GetMaximumX() でとれる)
 - ・ヒストグラムの場合、各ビンにおいて、測定で得られたイベント数を、モデルが予想する確率を計算して掛け算していって、Likelihoodを作って最大化する

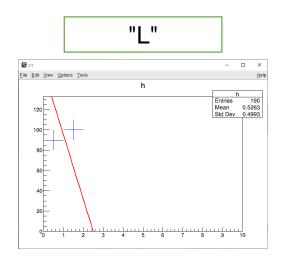
root でlikelihoodフィットをする方法

オプションに"L"を入れる デフォルトとほとん ど同じ(でもほんの ちょっと違う) fitting2.C void fitting2(){ // prepare histogram int bin num=10; TH1D $*h = new TH1D("h", "h;", bin_num, 0, 10);$ for(int i=0; i<400; i++) h->Fill(\overline{g} Random->Gaus(5,1.4)); 誤植:2で割っ h-Draw("E");てない // fitting TF1 *f = new TF1("f","[0]*TMath::Exp(-(x-[1])*(x-[1])/[2]/[2])",0,10); f->SetParameters(10, 5, 2); h->Fit(f, "L", "", 0, 10); フィット範囲 フィットの種類を 描画のオプション 決めるオプション (フィット後の自動描画をや めたい \rightarrow "goff")

下図を作っているコードはfitting3.Cです。 興味がある方はコメントアウトを切り替えた り外したりしながら描画してみてください。

- 実はゼロイベントのビンがフィッティングに参加しない
- 例:2ビンにエントリーがあるヒストグラムを直線でフィットしてみる
 - デフォルトはエントリーがあるビンの点をつなぐ直線
 - 3ビン目以降にイベントがなかったという情報が重要なら、このフィットは正しくない
 - "L"オプションは3ビン目も通るような直線
 - 関数がマイナスになっているところは、たぶん0にクリッピングされてると思われる挙動
 - likelihoodのときに関数が負になっているときはちょっと注意した方がいいかも
 - → これは極端な例だけど、どっちを使うべきか、は状況による

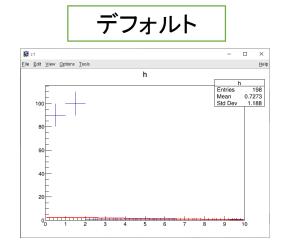


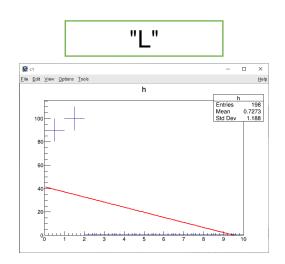


デフォルトの仕様

下図を作っているコードはfitting3.Cです。 興味がある方はコメントアウトを切り替えた り外したりしながら描画してみてください。

- 実はゼロイベントのビンがフィッティングに参加しない
- 例: 前ページの3~10ビンに1eventだけ追加したとき
 - デフォルトはほぼ下に張り付く直線
 - "L"オプションはなんとなく一番ずれるところが同じくらいになるような直線
 - → これもどっちを使うべきか、は状況による
 - ただし、イベント数を表すヒストグラムをフィットする場合、"L"の方が正しいと思う
 - rootの公式ページにもそう書いてある





デフォルトの問題点

本家

Chi-square Fits

By default a chi-square (least-square) fit is performed on the histogram. The so-called modified least-square method is used where the residual for each bin is computed using as error the observed value (the bin error) returned by THI::GetBinError

$$Chi2 = \sum_i \left(rac{y(i) - f(x(i)|p)}{e(i)}
ight)^2$$

where y(i) is the bin content for each bin i, x(i) is the bin center and e(i) is the bin error (sqrt(y(i)) for an un-weighted histogram). Bins with zero errors are excluded from the fit. See also later the note on the treatment of empty bins. When using option "I" the residual is computed not using the function value at the bin center, f(x(i)|p), but the integral of the function in the bin, Integral f(x|p)dx, divided by the bin volume. When using option P (Pearson chi2), the expected error computed as e(i) = sqrt(f(x(i)|p)) is used. In this case empty bins are considered in the fit. Both chisquare methods should not be used when the bin content represent counts, especially in case of low bin statistics, because they could return a biased result.

Likelihood Fits

When using option "L" a likelihood fit is used instead of the default chi-square fit. The likelihood is built assuming a Poisson probability density function for each bin. The negative log-likelihood to be minimized is

$$NLL = -\sum_i \log \mathrm{P}(y(i)|f(x(i)|p))$$

where P(y|f) is the Poisson distribution of observing a count y(i) in the bin when the expected count is f(x(i)|p). The exact likelihood used is the Poisson likelihood described in this paper: S. Baker and R. D. Cousins, "Clarification of the use of chi-square and likelihood functions in fits to histograms," Nucl. Instrum. Meth. 221 (1984) 437.

$$NLL = \sum_i \left(f(x(i)|p) + y(i) \log(y(i)/f(x(i)|p)) - y(i)
ight)$$

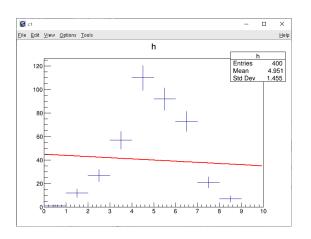
By using this formulation, 2*NLL can be interpreted as the chi-square resulting from the fit.

This method should be always used when the bin content represents counts (i.e. errors are sqrt(N)). The likelihood method has the advantage of treating correctly bins with low statistics. In case of high statistics/bin the distribution of the bin content becomes a normal distribution and the likelihood and the chi2 fit give the same result.

The likelihood method, although a bit slower, it is therefore the recommended method, when the histogram represent counts (Poisson statistics), where the chi-square methods may give incorrect results, especially in case of low statistics. In case of a weighted histogram, it is possible to perform also a likelihood fit by using the option "WL". Note a weighted histogram is a histogram which has been filled with weights and it has the information on the sum of the weight square for each bin (TH1::Sumw2()) has been called). The bin error for a weighted histogram is the square root of the sum of the weight square.

フィットの妥当性の確認

- 例えば
 - ガウスっぽいヒストグラムを直線でフィットしてみる
 - ・当然合ってない
 - どれくらいずれているのか、どういう指標で判断しよう?



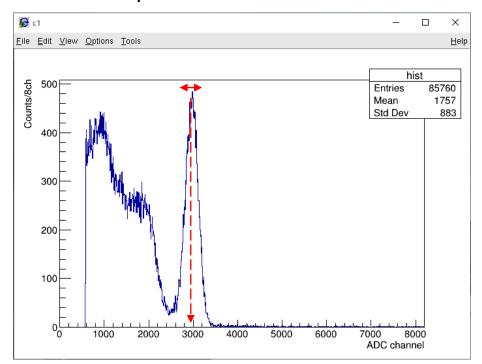
- ・カイニ乗値
 - 各点と線の距離の二乗和
 - これが小さいほど合ってるし、大きいほどずれている
- どれくらい小さければ妥当?
 - カイ二乗値を自由度で割った値が1くらいならOK(詳しくは統計の教科書)
 - 自由度とは、ビン数-フィットパラメータ数、のこと
 - 上の例だと、10(ビン数)-2(傾きと切片で2パラメータ)=8になる
 - 極端に0に近いと、合い過ぎて不自然なので、誤差の評価などを見直したりする
 - 検定の話はスキップ
 - キーワード:信頼区間、カイ二乗検定、Confidence Level(C.L.)、上限値・下限値

フィットの妥当性の確認

- ・コード内で情報を取ってくる方法
 - TF1のメソッドに、GetChisquare()、GetNDF() というのがある
 - (ついでに)GetParameter(i)、GetParError(i)で関数のパラメータや誤差を取得できる

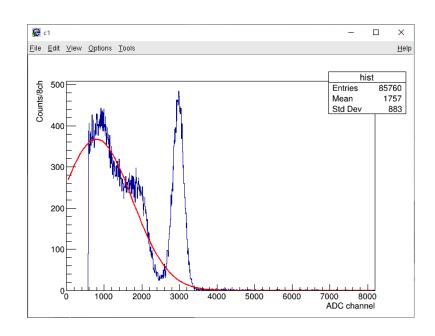
```
// fitting4.C
void fitting4(){
  // prepare histogram
  int bin num=10;
  TH1D *h = new TH1D("h", "h;", bin_num, 0, 10);
for(int i=0; i<400; i++) h->Fill(gRandom->Gaus(5,1.4));
  h->Draw("E"):
  // fitting
  TF1 *f = new TF1("f", "[0]*x+[1]", 0, 10);
  h->Fit(f, "L", "");
                                          パラメータ数
                                                                        パラメータ値
                                                                                                     パラメータ誤差
  // show fitted infomation
  cout << endl;
  for(int i=0; i < f - > GetNpar(); i++)
     cout \langle \langle "p["\langle \langle i \langle \rangle"] = " \langle \langle f - \rangle GetParameter(i) \langle \langle " + - " \langle \langle f - \rangle GetParError(i) \langle \langle endl; \rangle 
  cout << endl;
  cout << "chi2 = " << f->GetChisquare() << endl;</pre>
                                                                                              <mark>kiseki@dell-xps13:~/ymap2022$ root -l fitting4.</mark>C
  cout << "chi2/dof = " << f->GetChisquare()/f->GetNDF() << endl;</pre>
                                                                                              Processing fitting4.C...
                                                                                              Info in <TCanvas::MakeDefCanvas>: created default TCanvas with name c1
                                                                                              FCN=197.255 FROM MIGRAD STATUS=CONVERGED
                                                                                                                                                        122 TOTAL
                                                                                                                EDM=2.29279e-08
                                                                                                                                STRATEGY= 1
                                                                                                                                                ERROR MATRIX ACCURATE
                                                                                               EXT PARAMETER
                         カイニ乗値
                                                             自由度
                                                                                               NO. NAME
                                                                                                                            ERR0R
                                                                                                             -9.87697e-01
                                                                                                                          1.32694e+00
                                                                                                                                       3.68250e-03 -3.31902e-04
                                                                                                                                       1.94052e-02 -7.23916e-05
                                                                                                              4.49382e+01 6.99239e+00
                                                                                                                        ERR DEF= 0.5
                                                                                             p[0] = -0.987697 + -1.32694
                                                                                             p[1] = 44.9382 + 6.99239
                                                                                                                                 chi2/dofが1よりめちゃくちゃ大きい
                                                                                             chi2 = 3474.98
                                                                                                                              →フィッティングした関数は合ってないなあ
                                                                                             chi2/dof = 434.372
                                                                                             root [1]
```

- ヒストグラムを解釈するために、フィッティングをする
- ヒストグラムの解釈
 - ピーク部分をガウス関数でフィット
 - mean → エネルギーキャリブレーション
 - sigma → エネルギー分解能
 - scintillator_exp/macro_examples/fit_hist1.C を動かしてみる



- scintillator_exp/macro_examples/fit_hist1.C を実行してる
- 思ってたのと違いますね
- デフォルトだと全領域を無理やり一つのガウシアンでフィットしようとしてしまう

```
// fit hist1.C
void fit hist1(){
 // Define Range and Num of bin of histogram
 const int MCACh = 8192;
 const double HistMin = 0.;
 const double HistMax = 8192.;
 TH1D* hist = new TH1D("hist", "hist", MCACh, HistMin-0.5, HistMax-0.5);
 double BufferValue;
 ifstream ifs("../data/data1.txt");
 while(ifs >> BufferValue){
   hist->Fill(BufferValue);
 const int rebin factor=8;
 hist->Rebin(rebin factor);
 hist->SetTitle(Form("; ADC channel; Counts/%dch", rebin factor));
 hist->Draw();
 // fitting
 TF1 *func = new TF1("func", "gaus(0)", HistMin, HistMax);
 hist->Fit(func);
```

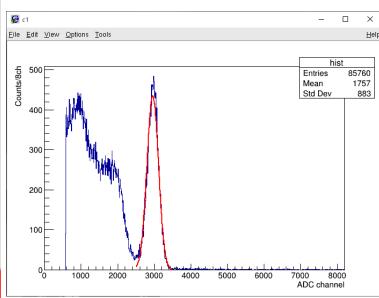


https://root.cern.ch/doc/master/classTF1.html

gaus (0) is a substitute for [0]*exp(-0.5*((x-[1])/[2])**2) and (0) means start numbering parameters at 0.

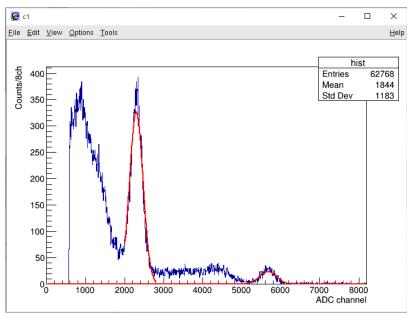
- ・フィッティングの範囲を指定すればOK
- (今回はイベント数のヒストグラムなので、"L"オプションも入れた)

```
// fit hist1 v2.C
void fit hist1 v2(){
  // Define Range and Num of bin of histogram
 const int MCACh = 8192;
 const double HistMin = 0.;
 const double HistMax = 8192.;
 TH1D* hist = new TH1D("hist", "hist", MCACh, HistMin-0.5, HistMax-0.5);
 double BufferValue;
  ifstream ifs("../data/data1.txt");
 while(ifs >> BufferValue){
    hist->Fill(BufferValue);
  const int rebin factor=8;
 hist->Rebin(rebin factor);
  hist->SetTitle(Form("; ADC channel; Counts/%dch", rebin factor));
 hist->Draw();
  // fitting
  TF1 *func = new TF1("func", "gaus(0)", HistMin, HistMax);
 hist->Fit(func,"L","",2500,3500);
cout << "(^o^) chi2/dof = " << func->GetChisquare()/func->GetNDF() << endl;
```



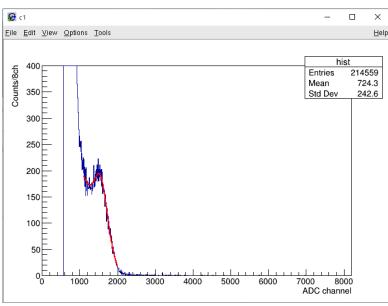
- data2 もフィッティングしてみよう
- ピークが2個あるので両方フィット

```
// fit hist2.C
void fit hist2(){
  // Define Range and Num of bin of histogram
  const int MCACh = 8192;
  const double HistMin = 0.;
  const double HistMax = 8192.;
  TH1D* hist = new TH1D("hist", "hist", MCACh, HistMin-0.5, HistMax-0.5);
  double BufferValue;
  ifstream ifs("../data/data2.txt");
  while(ifs >> BufferValue){
    hist->Fill(BufferValue);
  const int rebin factor=8;
  hist->Rebin(rebin factor);
  hist->SetTitle(Form("; ADC channel; Counts/%dch", rebin factor));
  hist->Draw();
   // fitting
  TF1 *func1 = new TF1("func1", "gaus(0)", HistMin, HistMax);
  func1->SetParameters(30, 5600, 200);
  hist->Fit(func1,"L","same",5200,6500);
cout << "(-->) chi2/dof = " << func1->GetChisquare()/func1->GetNDF() << endl;
  TF1 *func2 = new TF1("func2", "gaus(0)", HistMin, HistMax);
  func2->SetParameters(300, 2400, 100);
hist->Fit(func2,"L","",2000,2800);
  cout \langle \langle "(\langle --) | chi2/dof = " \langle \langle func2-\rangle GetChisquare()/func2-\rangle GetNDF() \langle \langle endl: \rangle
  func1->Draw("same");
```



- data3 もフィッティングしてみよう
- ピークが崖にかぶっている
- 関数をガウス+直線でフィットしたりする

```
// fit hist3.C
void fit hist3(){
  // Define Range and Num of bin of histogram
  const int MCACh = 8192;
  const double HistMin = 0.;
  const double HistMax = 8192.;
  TH1D* hist = new TH1D("hist", "hist", MCACh, HistMin-0.5, HistMax-0.5);
  double BufferValue;
  ifstream ifs("../data/data3.txt");
  while(ifs >> BufferValue){
    hist->Fill(BufferValue);
  const int rebin factor=8;
  hist->Rebin(rebin factor);
  hist->SetTitle(Form("; ADC channel; Counts/%dch", rebin factor));
  hist->SetMaximum(400);
  hist->Draw();
  // fitting
  TF1 *func = new TF1("func", "gaus(0)+[3]+x*[4]", HistMin, HistMax);
 func->SetParameters(200, 1500, 100, 200, -0.1);
hist->Fit(func, "L", "same", 1100, 2000);
cout << ":-) chi2/dof = " << func->GetChisquare()/func->GetNDF() << endl;</pre>
```

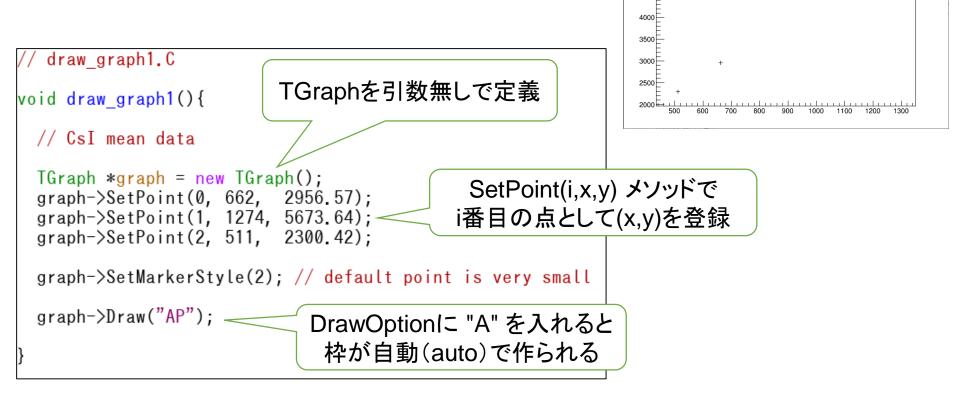


- data1~3 の mean と sigma をまとめ
- ・データの測定条件は README.md を参照
- ・エネルギーが大きいほどmeanやsigmaが大きいように見える
- 数字の羅列だと、ぱっと見でそれ以上の情報を引き出すのが難しい
 - TGraph で可視化しよう

data	detector	energy	mean	sigma
data1	Csl	662 keV (137Cs)	2956.57±1.09	158.93±0.81
data2 右	Csl	1274keV (22Na)	5673.64±5.85	221.79±4.58
data2 左	Csl	511 keV (22Na)	2300.42±1.56	172.97±1.32
data3	GAGG	662keV (137Cs)	1556.57±6.36	155.98±7.88

TGraph

- TGraph で平面上の点列を描画できる
- draw_graph1.C を書いて実行してみよう
- エネルギーとADCが直線に乗ってそうだ



File Edit View Options Tools

5000

TGraph: もうちょいきれいに

Csl / GAGG の線形性とエネルギー分解能のエネルギー依存性を描画

```
// draw graph2.C
void draw graph2(){
 double ene[4] = {662, 1274, 511, 662};
 double mean[4] = {2956.57, 5673.64, 2300.42, 1556.57};
 double sigma[4] = {158.93, 221.79, 172.97, 155.98};
 TGraph *g CsI mean = new TGraph();
 for(int i=0; i<3; i++) g CsI mean->SetPoint(i, ene[i], mean[i]);
 TGraph *g CsI resolution = new TGraph();
 for(int i=0; i<3; i++) g CsI_resolution->SetPoint(i, ene[i], sigma[i]/mean[i]*100*2.35);
 TGraph *g GAGG mean = new TGraph();
 g GAGG mean->SetPoint(0, ene[3], mean[3]);
                                                                             File Edit View Options Tools
 TGraph *g GAGG resolution = new TGraph();
                                                                                              linearity
                                                                                                                                    resolution
 g GAGG resolution->SetPoint(0, ene[3], sigma[3]/mean[3]*100*2.35);
                                                                                5000 g
 g CsI mean->SetMarkerStyle(2);
 g CsI mean->SetMarkerColor(2);
 g CsI resolution->SetMarkerStyle(2);
                                                                                 4000
 g CsI resolution->SetMarkerColor(2);
 g GAGG mean->SetMarkerStyle(4);
 g GAGG mean->SetMarkerColor(4);
 g GAGG resolution->SetMarkerStyle(4);
 g GAGG resolution->SetMarkerColor(4);
 TCanvas *c = new TCanvas("c", "c", 1200, 500);
 c->Divide(2,1);
 for(int i=0; i<2; i++) c->cd(1)->SetMargin(0.15,0.1,0.1,0.1);
 c->cd(1)->DrawFrame(0,0,1500,6000,"linearity; energy [keV]; mean [ADC]");
 g_CsI_mean->Draw("sameP");
 g_GAGG_mean->Draw("sameP");
 c\rightarrow cd(2)\rightarrow DrawFrame(0,0,1500,30,"resolution; energy [keV]; FWHM [%]");
                                                                                        最初にキャンバスを書いてから
 g CsI resolution->Draw("sameP")
 g GAGG resolution->Draw("sameP");
```

グラフを"same"オプションで重ね書き

おわり

- ・やったこと
 - TF1: いろんな関数を定義して描く
 - Fitting:ヒストグラムを関数であてはめる。カイ二乗フィットとLikelihoodフィットがあり、 統計量のときはLikelihoodが吉
 - TGraph: 二次元平面上での点列を定義して描く

YMAP入会

- https://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/YMAP/join.html
- 講師も募集中